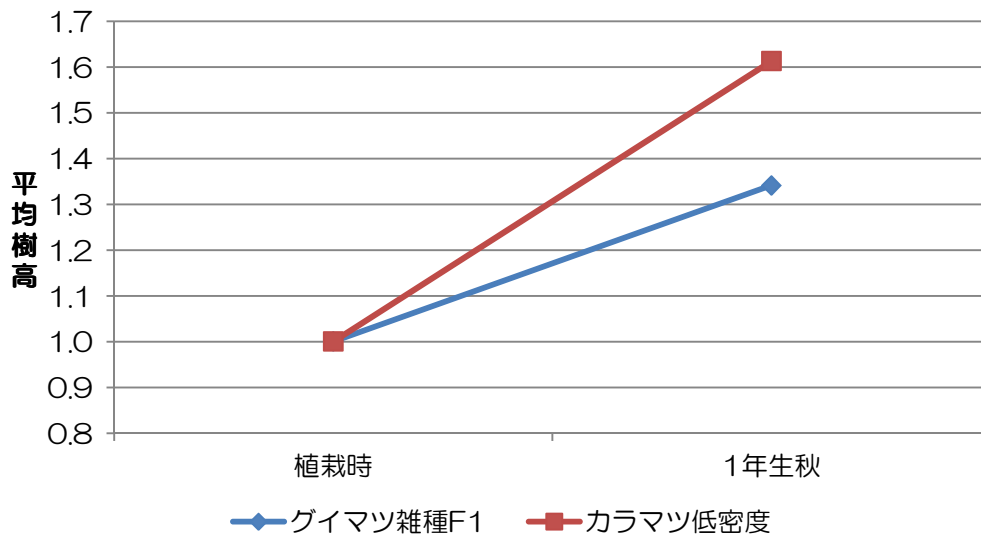


低密度植栽試験地調査（成長量・生存率）1年目調査結果

1 成長量について

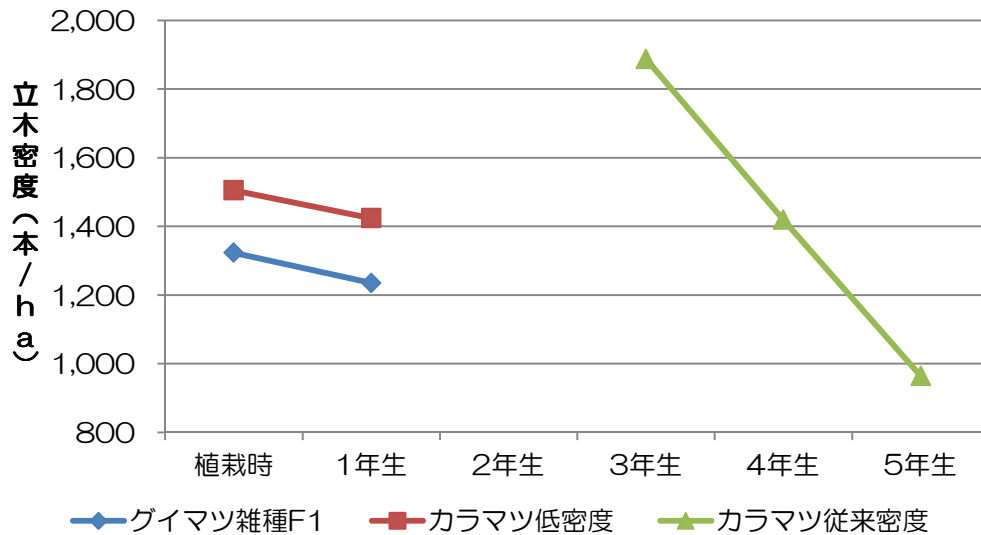
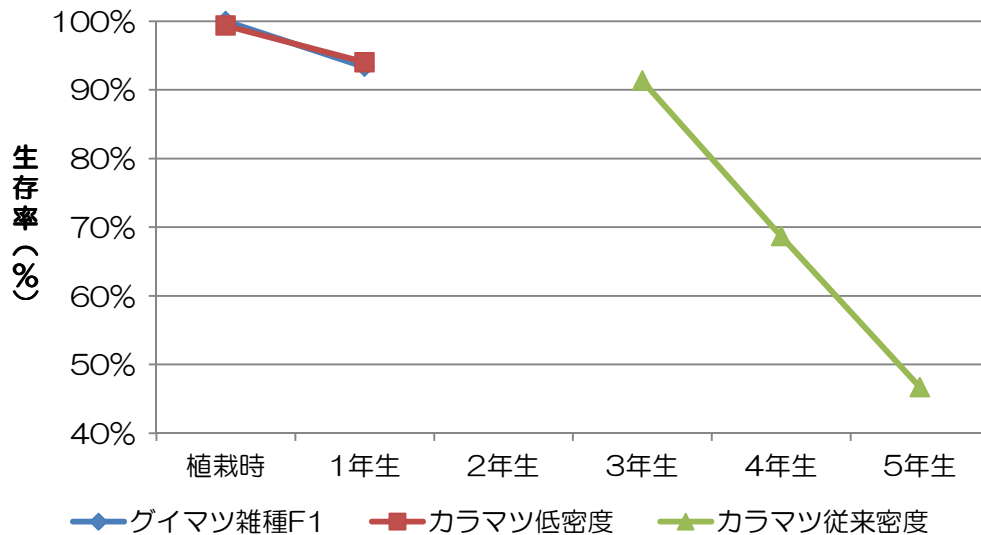
2015年6月及び10月に実施した調査において、低密度植栽試験地及び対照地における健全木の平均樹高（健全木：食害等を受けていない個体）は下図の通りとなった（植栽時を1.0として表示）。



健全木の平均樹高はギイマツ雑種F1が植栽時と比較して1.3倍、カラマツ低密度植栽地は植栽時と比較して1.6倍となっており、ギイマツ雑種F1の初期生長はカラマツと比較しても大きな差がなかった。また、健全木の比率においてもギイマツ雑種F1が84.7%、カラマツが86%と1年生秋の時点においては樹種による差が見られなかった。

2 生存率について

低密度植栽試験地及び対照地における生存率及び立木密度(本/ha)は下図の通りとなった。試験地における生存率は93%程度となっており、現時点では問題ないと考えられる。しかしながら、対照地における4年目及び5年目の生存率が低い事から、低密度植栽試験地における生存率の推移を引き続き注視する必要がある。



3 1年目調査終了時点のまとめ

低密度植栽試験地においては成長量及び定着状況はともに順調であると考えられる。しかしながら、対照地における4年目及び5年目の定着状況が芳しくない事から、当該試験地の定着状況を注視する必要がある。